



1 はじめに

桃園学区自主防災会(京都市上京区)は、西陣・千両ヶ辻の歴史と伝統を継承しており、古くからの木造建築物(そのうち多くが京町家です)が密集した町並みとなっております。生活の一体感が高く、日頃から、向こう三軒両隣の連携が密な地域で、警火意識についても非常に高いものがありました。

しかしながら、共同住宅の建築や新興住宅街の形成等により、自主防災会内に地縁のない居住者が増加傾向となり、「顔の見える関係」の希薄化が課題となっております。また、近年は、火災のみならず、地震や風水害等、災害の様態も多様化したことと、AEDの社会的な普及もあったことから、防火から防災へと、住民の意識をシフトすることについても、併せて課題となっております。

そこで、それぞれの課題の解消に向け、関係機関と連携を密にして、住民を積極的に参加させる様々な取組を実施することにより、住民の災害対応力の向上を図るとともに、自主防災会全体の災害対応力の向上に努めてまいりました。とりわけ、上京消防署の小川哲平さんには、たくさんの御指導をいただくとともに、思いを共有しながら、二人三脚で進んでまいりました。

この度、その功績について皆様にお認めいただき、令和2年2月、栄えある「第24回防災まちづくり大賞消防庁長官賞」(主催：総務省消防庁、共催：一般財団法人

人日本防火・防災協会)を受賞いたしました。

2 ミニ防災訓練の実施

～きめ細やかな防火・防災指導～

ミニ防災訓練は、毎年、夏から秋にかけて、ほぼ全ての自主防災部(町内)を対象として、昼夜を分かたず実施しており、上京消防署と上京消防団桃園分団に御協力いただき、大地震等の大規模災害が発生した際に、自主防災部ごとに住民が協力し合って、消火活動や救出救護活動等の災害対応を組織的に実施するため、集合する場所として決めている場所(地域の集合場所)において、地域発災型の訓練を主として、防火・防災の講話、訓練用消火器を使用した初期消火訓練、訓練用人形を使用した心肺蘇生法等を実施しており、その細かな内容については、住民の意見等を反映したものとしております。

なお、自主防災会総合防災訓練については、ミニ防災訓練の集大成として、自主防災会へ配備されている避難所運営の



ミニ防災訓練(初期消火訓練)

ための資機材や救出救護のための資機材を活用した訓練等を内容に加えて、毎年11月に実施しております。



ミニ防災訓練（心肺蘇生法）

3 合同防火安全指導の実施

～災害時要援護者に対する取組～

春・秋の火災予防運動をはじめ、京都市消防局が定めている各種防火運動や無火災推進日（毎月5日及び20日）に、上京消防署員、桃園消防分団員、民生委員等と合同で、災害時要援護者宅を訪問し、防火・防災に関する啓発及び指導を行っております。

この訪問においては、自主防災会内に居住する災害時要援護者の実態把握と、災害時要援護者宅における出火及び人命の危険に係る事項の点検のみならず、その結果に基づく積極的な指導や助言も行っており、関係機関と合同で実施することにより、訪問を受ける災害時要援護



合同防火安全指導

者の安心感を高め、地域における安心・安全の構築に大きく寄与しているものと考えております。

4 結びに

誌面の都合上、全てを紹介することはできませんが、桃園学区自主防災会では、その他にも、例えば、幼少年者を主体者とする巡回広報の実施や、京都市立西陣中央小学校PTAと協力した小学生に対する防火・防災思想の普及啓発等にも力を入れており、「全世代対象の防災ひとづくり」を標榜しております。



小学生に対する防火・防災思想の普及啓発

「誰かが助けてくれる」という漠然とした思い込みではなく、「自分たちで助かろう（助けよう）」という確固たる信念の共有を目標に、一人ひとりの力は微力かも知れませんが、その微力を結集して、自主防災会全体の「備力（災害へ備える力）」の醸成に努めております。

皆様におかれましても、これらの様々な取組の主旨をご理解いただき、それぞれの地域において、その思いの輪をさらに拡げていただきますことを祈念しております。